

甲斐市立双葉西小学校 自己評価書

令和5年2月8日（水）作成

校長 「 窪田 正幸 」

記述者 職名 教頭 「 小田切真喜 」

学校教育目標 「ともに学び ともに育つ」

【めざす子ども像】

- ・知 ○よく考え判断できる子ども
- ・徳 ○思いやりと感動する心のある子ども
- ・体 ○じょうぶでがんばる子ども

【めざす学校像】

- 豊かで確かな学力をつける「学びがある」学校
- その子のよさを認め、伸ばす「仲間がいる」学校
- 地域と互惠関係にある「地域とともにある」学校
- 子どもの命を守る「安心・安全である」学校

【めざす教師像】

- ともに学び合い、互いに磨き合い、よりよい授業を創る教師
- 目標に向かって創意工夫し、協働する教師
- 子どもの心に寄り添い、支え合う学級づくりをする教師
- 保護者や地域との信頼関係を築く教師
- よさを認める温かさ高い志を求め厳しさを持つ教師

学校経営方針

基本：教師力の向上・信頼によるチーム力の発揮・創意ある協働

- (1) 学校教育目標「ともに学び ともに育つ」を常に意識し、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」の実現に向け、積極的に教育実践に取り組む。
- (2) PDCA サイクルを生かし、より質の高い教育活動を構築する。
- (3) 意欲的に研修に励み、専門職としての資質・能力の向上に努める。
- (4) 信頼される学校づくりの実現に努める。

令和4年度 双葉西小学校のグランドデザイン

《学校教育目標》

ともに学び ともに育つ

《めざす教師像》

- ともに学び合い、互いに磨き合い、よりよい授業を創る教師
- 目標に向かって創意工夫し、協働する教師
- 子どもの心に寄り添い、支え合う学級づくりをする教師
- 保護者や地域との信頼関係を築く教師
- よさを認める温かさ高い志を求め徹しさをもち教師

《めざす学校像》

- 豊かで確かな学力をつける[学びがある]学校
- その子のよさを認め、伸ばす[仲間がいる]学校
- 地域と互恵関係にある[地域とともにある]学校
- 子どもの命を守る[安心・安全である]学校

《めざす子ども像》

よく考え 思いやりと じょうぶで
判断できる子ども(知) 感動する心のある子ども(徳) がんばる子ども(体)

今年度の指導重点

<p>1 確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の改善とICT活用 「地域とつむぐ授業」の充実と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践的研究を進めるとともに、ICTの活用等を進めながらの授業改善を図る。 ○「主体的に学習に取り組む態度」の評価 粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面の2つの側面を評価する。 	<p>2 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権教育の推進 「SOSの出し方に関する教育」に取り組む。 ○道徳教育の推進 道徳の授業地域公開の実施など、児童の実態や地域の実情を踏まえた道徳教育推進運動を進める。 ○いじめ・不登校への対応 関係機関と連携した支援体制の充実を図るとともに魅力ある学校づくりを目指した研修を位置付ける。
<p>3 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体力の向上 人間関係づくり等を踏まえた中で、既存の運動機会を、体力の向上につながるように工夫する。 ○健康教育の充実 感染症への正しい理解に基づき、自ら適切な行動をとることができるよう、具体的・実践的な指導を継続して行う。 	<p>4 地域や世界で活躍する人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝統や文化等に関する教育の推進 地域との連携などにより、郷土学習を推進する。 ○外国語教育の充実 「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の5領域の言語活動や、パフォーマンス評価を計画的に実施する。
<p>5 特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門性の向上 特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のための研修を位置付け、実施する。 ○教育内容の充実 多様性を認め合える集団づくりのための交流及び共同学習において、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育む。 	<p>6 安全・安心な学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全教育の推進 学校安全計画や危機管理マニュアルの改善を行うとともに、安全教育教材を活用した実践に取り組み、児童が自分で自分の身を守る能力を育む。 ○学校安全の推進 防災行動計画に基づいた防災体制の推進と、保護者・地域との連携強化や連絡体制の整備を進める。

学級経営の充実 (学習活動づくり 人間関係づくり 環境づくり)

コミュニティ・スクール(地域とともにある学校) 『双葉で育ち 双葉を育てる人づくり』

1 全体評価

本校の学校評価は次の全7観点で行っている。

- I 学校教育目標・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色について
- VII 創甲斐教育について

また、教職員自己評価及び保護者アンケートのそれぞれの設問は、右のような5段階評価で、小学生用アンケートにおいては4段階評価で行っている。教員自己評価において、「E：わからない」については担当外の場合のみつけている。また、年1回の実施のため、昨年度の結果を踏まえながら検討している。

5段階評価〈教職員・保護者〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

4段階評価〈小学生〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）

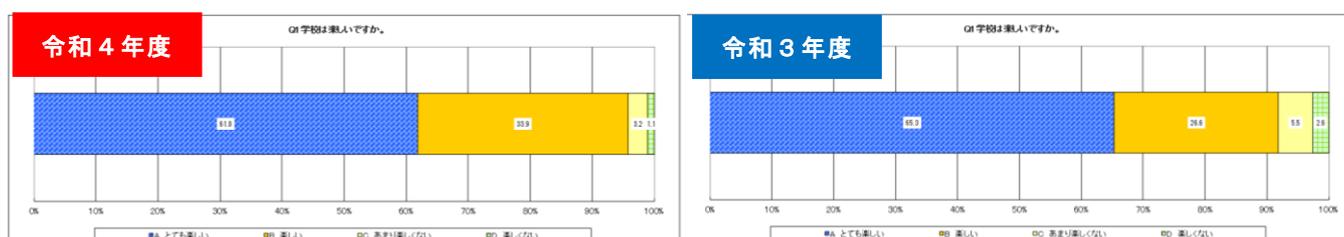
（1）教員自己評価について

本校では学校長を中心に、学校教育目標「ともに学び ともに育つ」の具現化を目指し、全職員で協働し、研鑽を積んできている。特に校内研究会では、研究主題を「豊かな感性と確かな学力をもつ子どもの育成～ICTの効果的な活用を通して～」と設定し、日々の授業の中でのICT機器の効果的な活用方法を全職員で共通理解を図りながら研究に取り組み、成果をあげることができた。

今年度の教員自己評価も、38の設問のうち37の設問で「A+Bの肯定的評価」が90%以上となっており、教職員が子供たちのために誠実に職務に専念している姿勢が表れている。

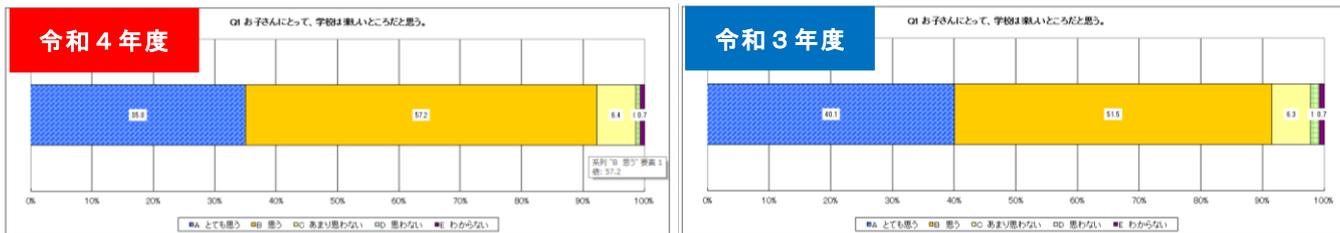
（2）小学生用アンケートについて

「学校は楽しいですか」の肯定意見が約96%となり、多くの児童が学校生活に満足する状況である。また、今年度の否定意見の児童の状況は約4%（12名）となっており、昨年度の約8%（22名）の1/2との結果が出ている。全体的によい傾向ではあるが、今後も日常的に児童と関わる中での見取りやQ-U調査、児童理解の情報交換等により、気になる児童についての共通理解を教職員間でとりながら、継続的に対応している。不登校児童への対応も含めて、今後もきめ細かな指導を行っていくことが必要である。



(3) 保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見は約 92%であった。昨年までと同様、学校に対して好意的な評価である。



2 観点毎の評価結果（達成状況・改善策）

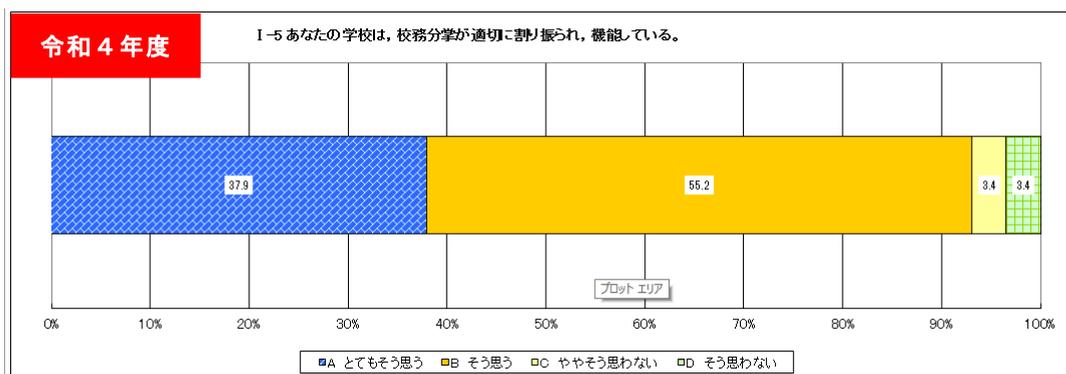
I 学校教育目標・学校経営について

(1) 達成状況について

I 学校教育目標・学校経営について	令和 4 年度				令和 3 年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とても思う	思う	ややそう思わない	そう思わない	とても思う	思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
I-1 あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。	58.6	41.4	0.0	0.0	63.0	37.0	0.0	0.0
I-2 あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	82.8	17.2	0.0	0.0	77.8	22.2	0.0	0.0
I-3 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	55.2	44.8	0.0	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0
I-4 あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。	48.3	51.7	0.0	0.0	51.9	48.1	0.0	0.0
I-5 あなたの学校は、校務分掌が適切に割り振られ、機能している。	37.9	55.2	3.4	3.4				

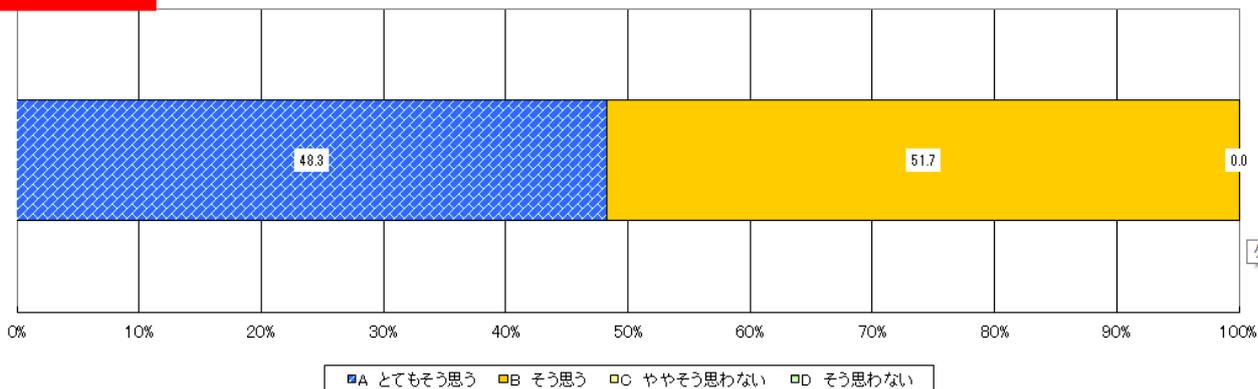
学校教育目標や学校経営については全体的に肯定的な意見が多く、昨年度に引き続きほとんどの教職員が、学校教育目標を踏まえた学校経営がなされ、一定の成果を得ていると実感していると考えられる。

一方で、PDCAサイクルによる教育活動の改善や機能的な校務分掌の働きの項目については比較的低い数値が見られた。特にI-5の設問については、「C：ややそう思わない」「D：そう思わない」の回答率がそれぞれ3.4%（1名）となっている。（I-5の設問については、令和3年度は実施していない。）



令和4年度

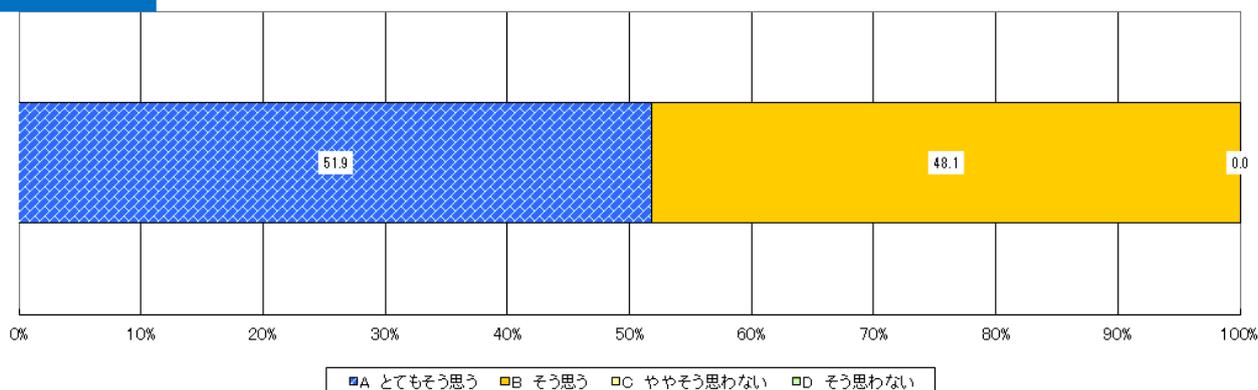
I-4 あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。



グラフE

令和3年度

I-4 あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。



(2) 改善策について

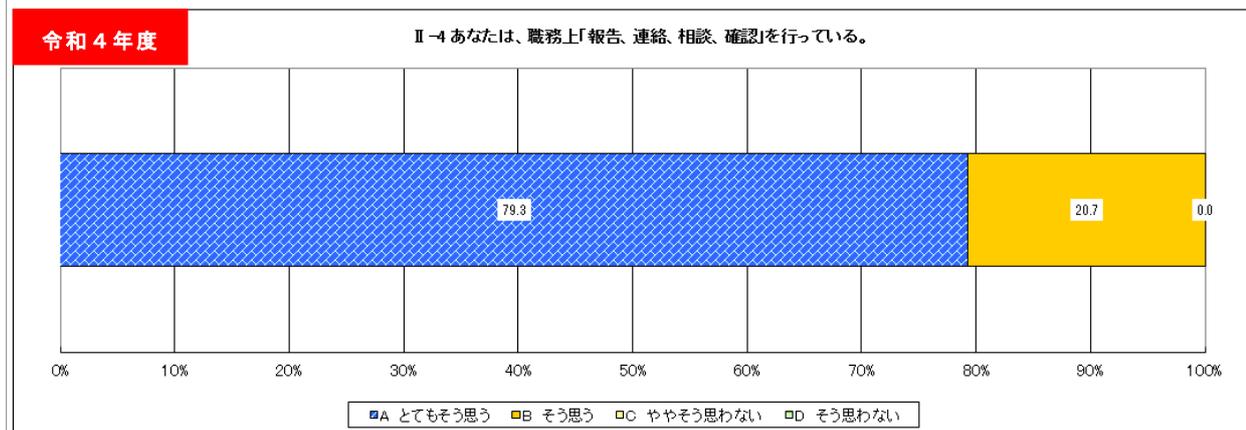
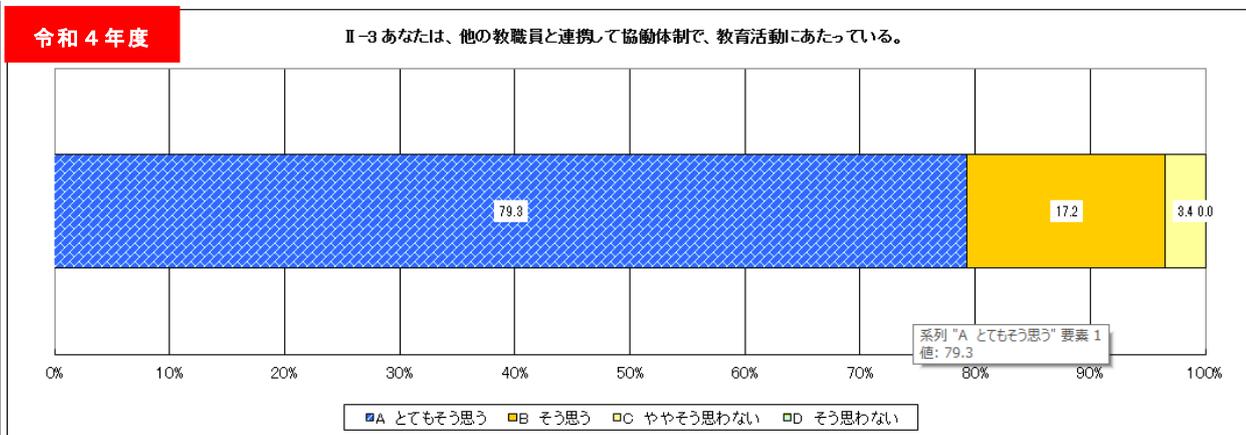
- ① 人事評価の面談を通じてそれぞれの教職員の育成指標にあった適切な目標を立てさせ、目標を意識させながら日々の教育活動にあたりるとともに、校内研究会等を通して研修を深め、PDCAサイクルを活用しながら、効果的・効率的な教育活動を目指した改善を図れるようにしていく。
- ② 責任の重い仕事については複数人で担当させたり、適材適所に人材を配置したりするなどし、より組織的に職務にあたることができるよう校務分掌の割り振りをする。できるだけ仕事量に偏りのないようにするとともに、ベテラン教師と若手教師をバランスよく配置してOJTを通しての教職員の資質・能力の向上を図る。

Ⅱ 学校運営について

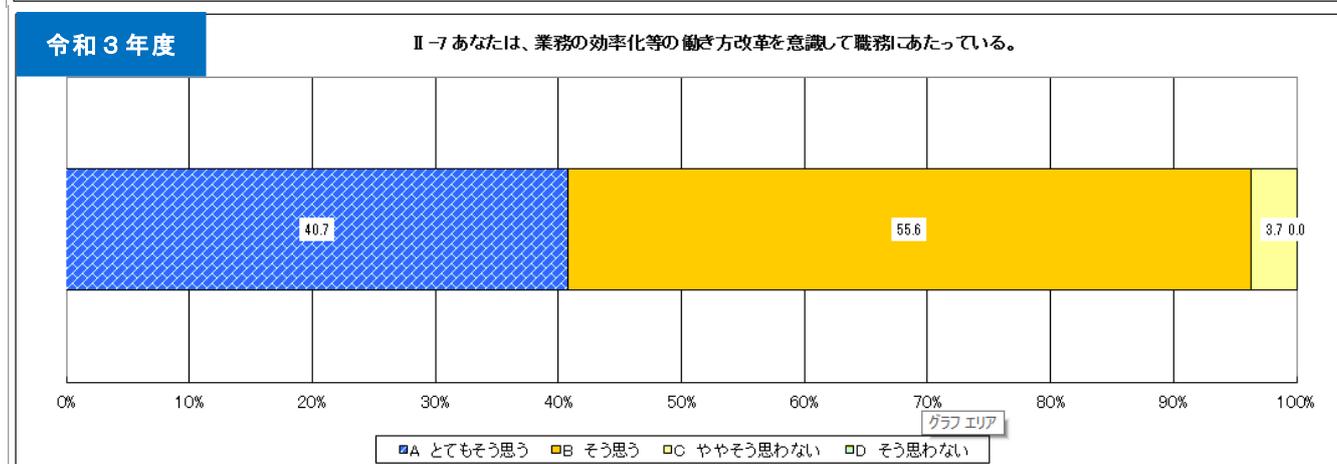
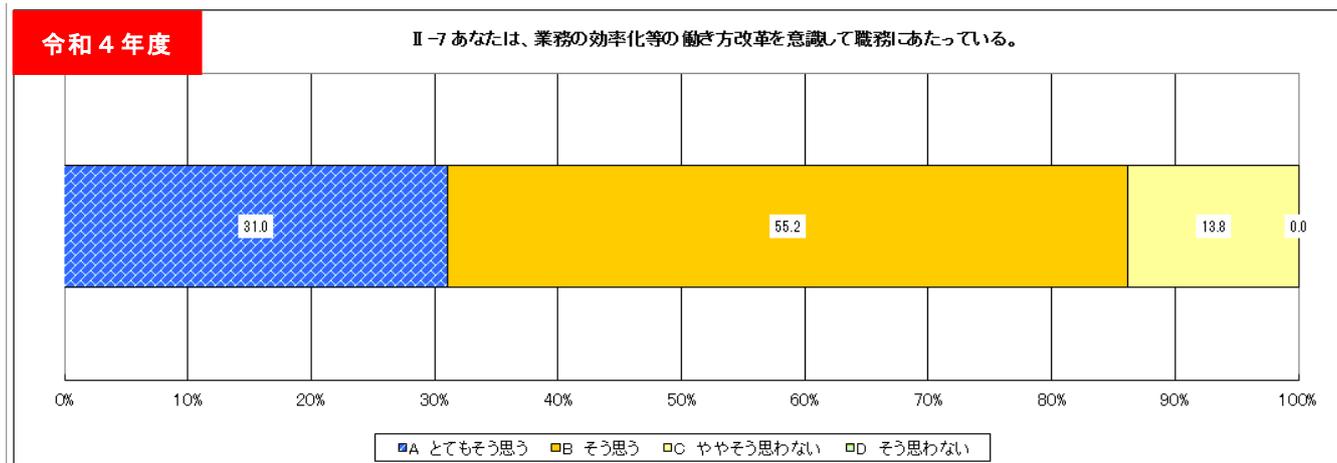
(1) 達成状況について

Ⅱ 学校運営について	令和4年度				令和3年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
Ⅱ-1 あなたは、危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。	58.6	37.9	3.4	0.0	48.1	51.9	0.0	0.0
Ⅱ-2 あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	75.9	24.1	0.0	0.0	63.0	37.0	0.0	0.0
Ⅱ-3 あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。	79.3	17.2	3.4	0.0	81.5	18.5	0.0	0.0
Ⅱ-4 あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	79.3	20.7	0.0	0.0	85.2	14.8	0.0	0.0
Ⅱ-5 あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。	51.9	48.1	0.0	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0
Ⅱ-6 あなたは、校務支援システムを十分活用できている。	37.0	59.3	3.7	0.0	37.0	63.0	0.0	0.0
Ⅱ-7 あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。	31.0	55.2	13.8	0.0	40.7	55.6	3.7	0.0
Ⅱ-8 あなたの学校は、特別支援体制が整い、機能的に活用されている。	41.4	48.3	6.9	3.4	46.2	46.2	7.7	0.0

全体的に良好な結果が示されており、多くの教職員が主体的に学校運営に関わっている学校組織であると言える。特にⅡ-3「協働体制」やⅡ-4「報告、連絡、相談、確認」を問う設問の肯定的意見の割合は高く、本校の教職員の強力なチーム学校体制が特徴となって表れている。



一方、Ⅱ－6「校務支援システム」やⅡ－7「働き方改革」、Ⅱ－8「特別支援体制」については否定的意見も見られる。特に「働き方改革」については「C：ややそう思わない」の回答率が13.8%（4名）と比較的高く、本校の取り組むべき課題であると考えられる。



(2) 改善策について

- ① 校務支援システムについては採用されて3年経過するところであるが、まだまだその利点を十分に活用できているとは言えない。しかしながら学校スケジュールや掲示板、旅行命令簿等の使用頻度は増えてきている。引き続き活用していくことでその利便性は生かされてくるものと考えられる。
- ② 現在全教職員で毎月2回以上は「定時退勤日」を設け、その日は定時に退勤する取り組みを行ってきている。今後も自分で仕事の見通しを持ちながらスケジュールを立て、効率よく仕事を行うよう呼びかけを続けることで、教職員の意識改革を行っていく。また、学校行事の見直しや教材教具の引き継ぎ、適切な校務分掌の組織等、管理職を中心とした多忙化解消への取り組みを推進していく。
- ③ 校内研究会等を利用しての特別支援教育に関する研修を行うなど、全教職員の資質・能力の向上を図る。また、校内支援委員会を定期的に関き、全教職員で共通理解を持ちながら特別な支援を要する児童の指導にあたっていく。さらに、支援員等を効果的に配置して十分な体制で特別支援教育が行えるようにしていく。

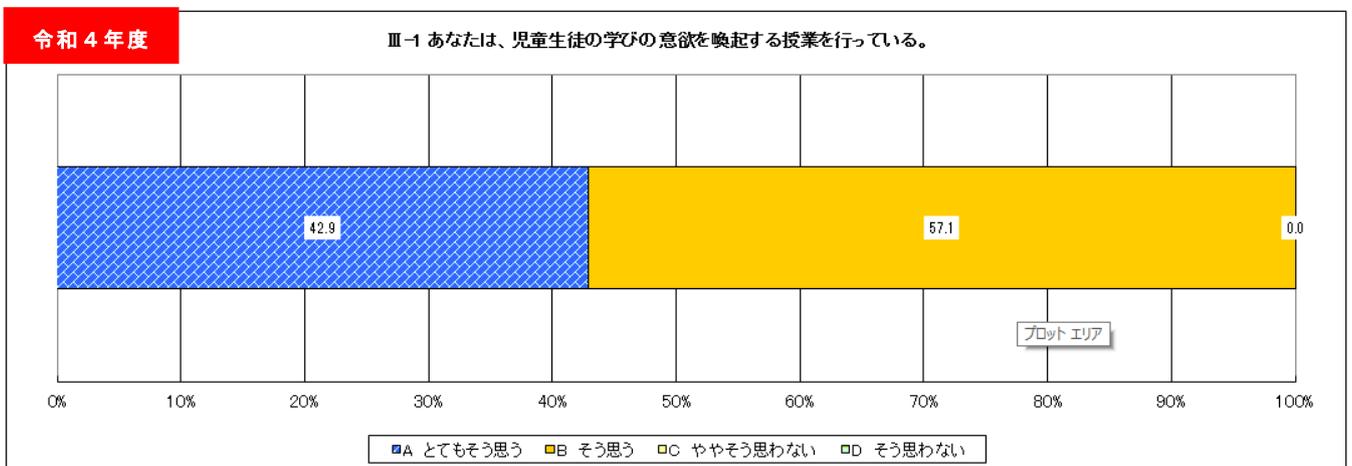
Ⅲ 学習指導について

(1) 達成状況について

Ⅲ 学習指導について	令和4年度				令和3年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
質問内容	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
Ⅲ-1 あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	42.9	57.1	0.0	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0
Ⅲ-2 あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。	61.9	38.1	0.0	0.0	70.4	29.6	0.0	0.0
Ⅲ-3 あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。	38.1	57.1	4.8	0.0	37.0	59.3	3.7	0.0
Ⅲ-4 あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。	42.9	57.1	0.0	0.0	48.1	44.4	7.4	0.0
Ⅲ-5 あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行っている。	38.1	61.9	0.0	0.0	59.3	37.0	3.7	0.0
Ⅲ-6 あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	63.2	31.6	5.3	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0
Ⅲ-7 あなたは、「やまなしスタンダード」を意識した授業を行っている。	57.1	38.1	4.8	0.0	50.0	46.2	3.8	0.0

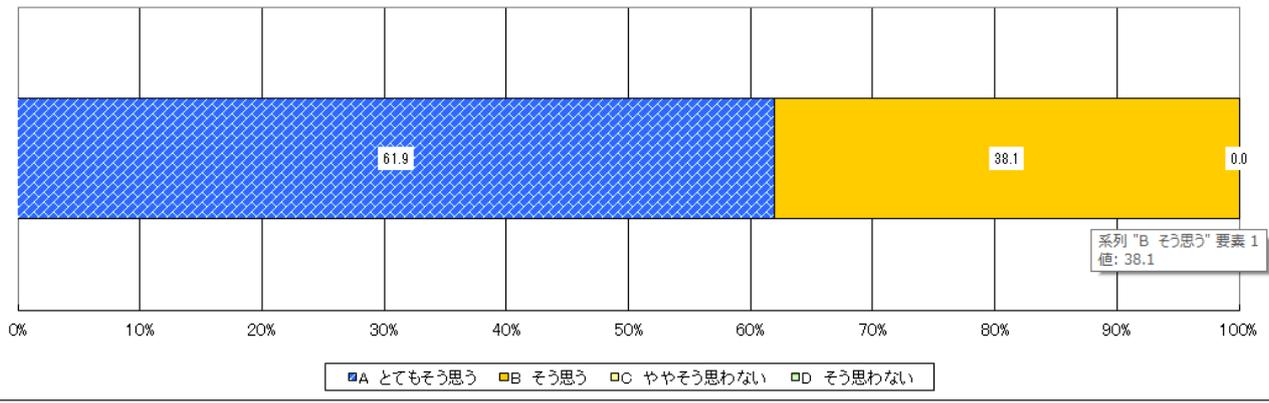
全ての設問において「A+Bの肯定的評価」は90%以上となっており、昨年度からの底上げも見て取ることができる。特にⅢ-1「意欲の喚起」、Ⅲ-2「基礎基本の定着」、Ⅲ-4「ICT」、Ⅲ-5「協働的な学び」については「肯定的評価」が100%である。校内研究会等の組織的な研修への取り組みや、教職員個人での教材研究や教育技術の習得など、日々の実践が結果として表れているものと言える。

一方、昨年度に比べ「A：とてもそう思う」の回答率が下がっている傾向にある。全体的に教職員一人一人が、自分の職務の実施状況について向上心を持ちながら振り返り評価しているため、相対的に見て厳しい自己評価になっているものと考えられる。若い教員が増えていく中、学年間の連絡や調整を行っていく学年主任等も若返っている現状であり、それぞれの教職員のステージに応じた資質・能力の向上が求められる。



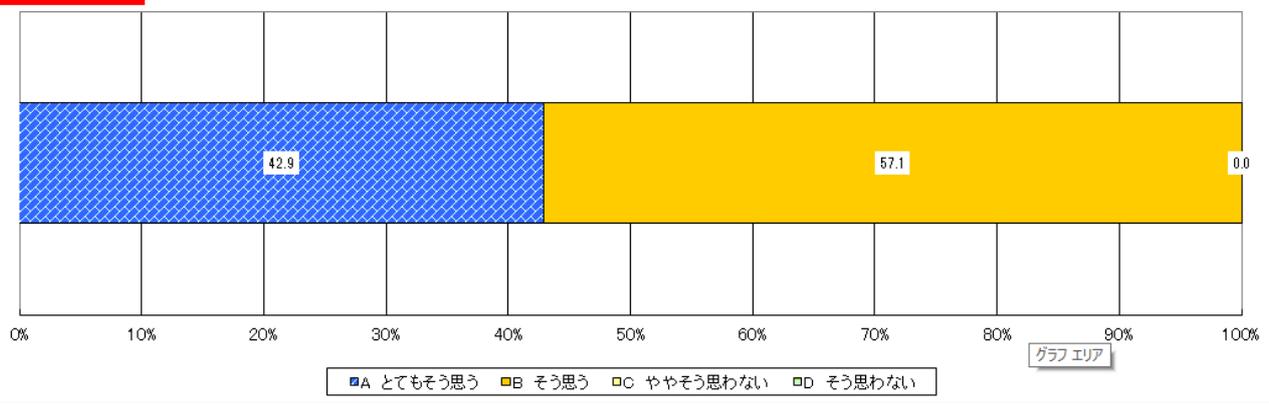
令和 4 年度

Ⅲ-2 あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。



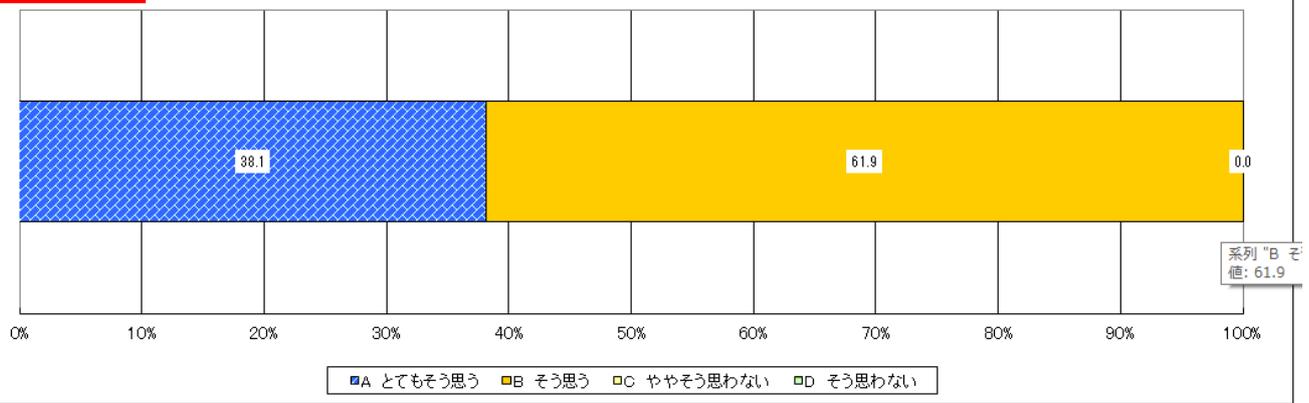
令和 4 年度

Ⅲ-4 あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。



令和 4 年度

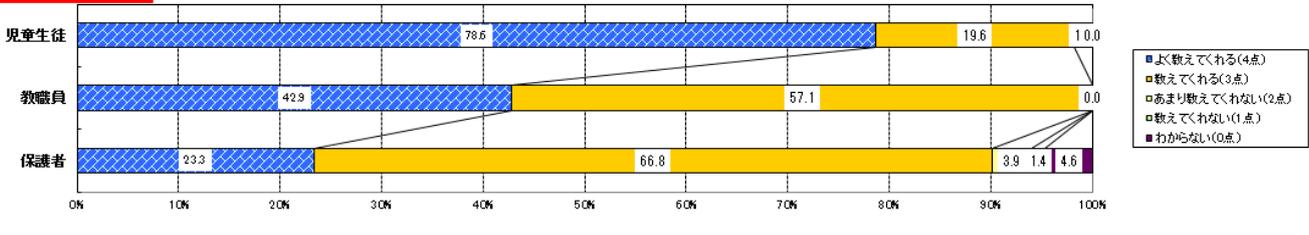
Ⅲ-5 あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行っている。

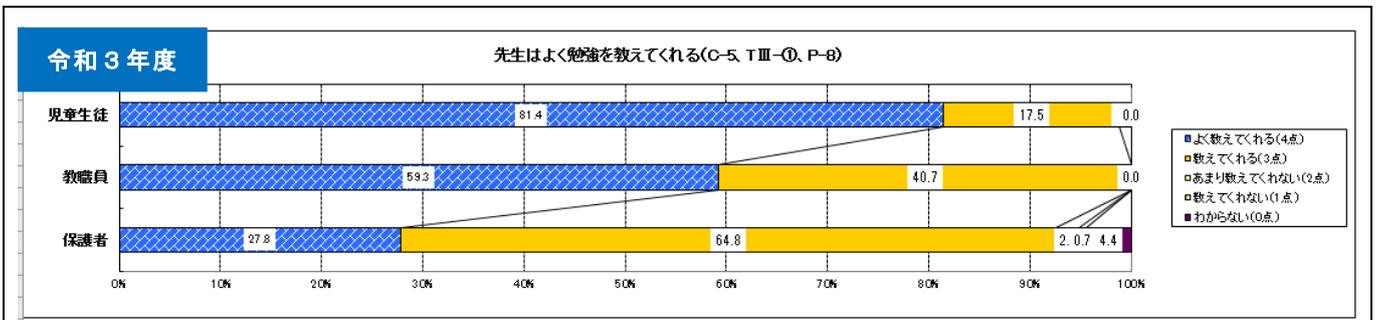


また、授業についてのわかりやすさを問う設問でも、約 98%の児童が「先生はよく勉強を教えてくれる」を回答しており、昨年同様に学校における毎日の授業が充実し、児童が満足している様子が見受けられる。また、保護者アンケートでも同様に、高い評価を得ている。

令和 4 年度

先生はよく勉強を教えてくれる(C-5、TⅢ-①、P-8)





(2) 改善策について

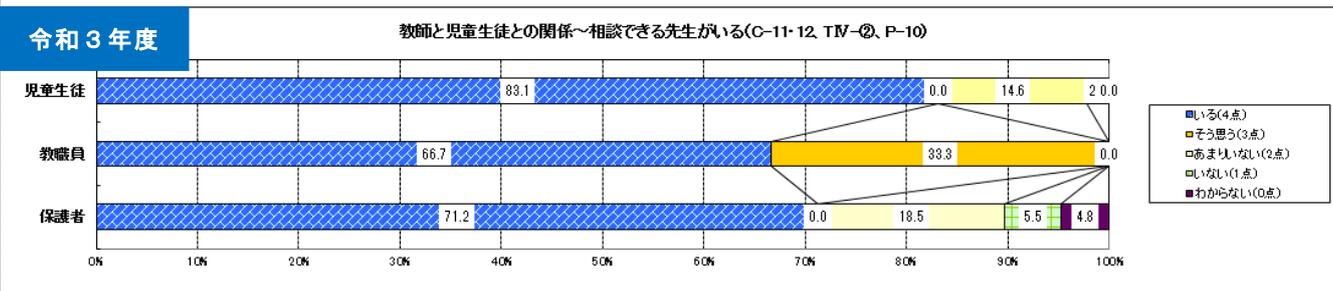
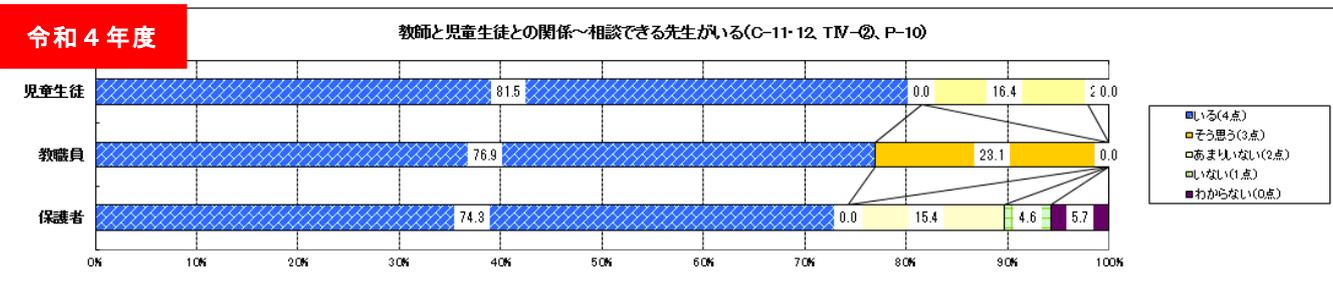
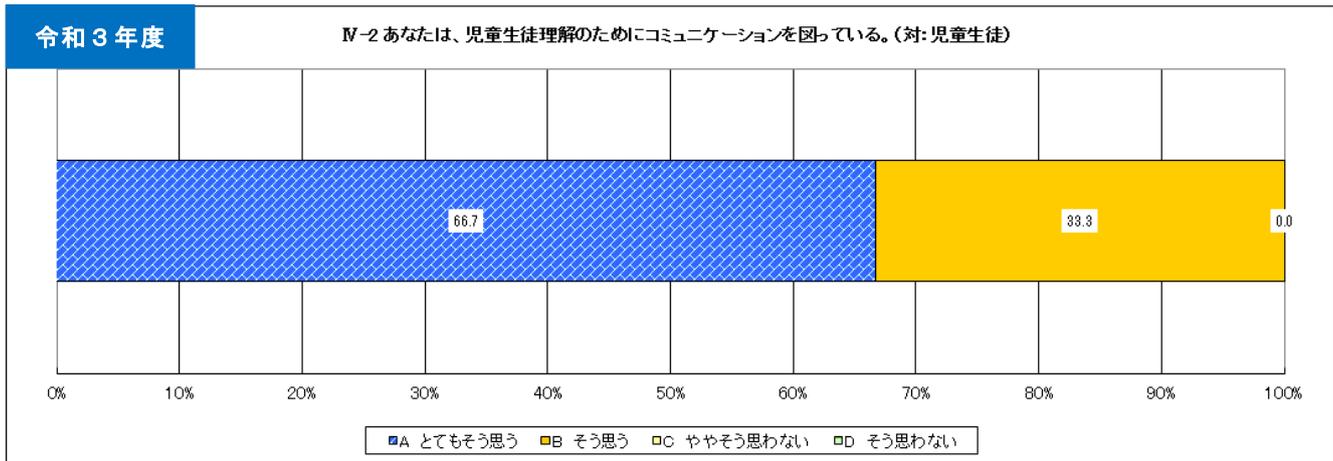
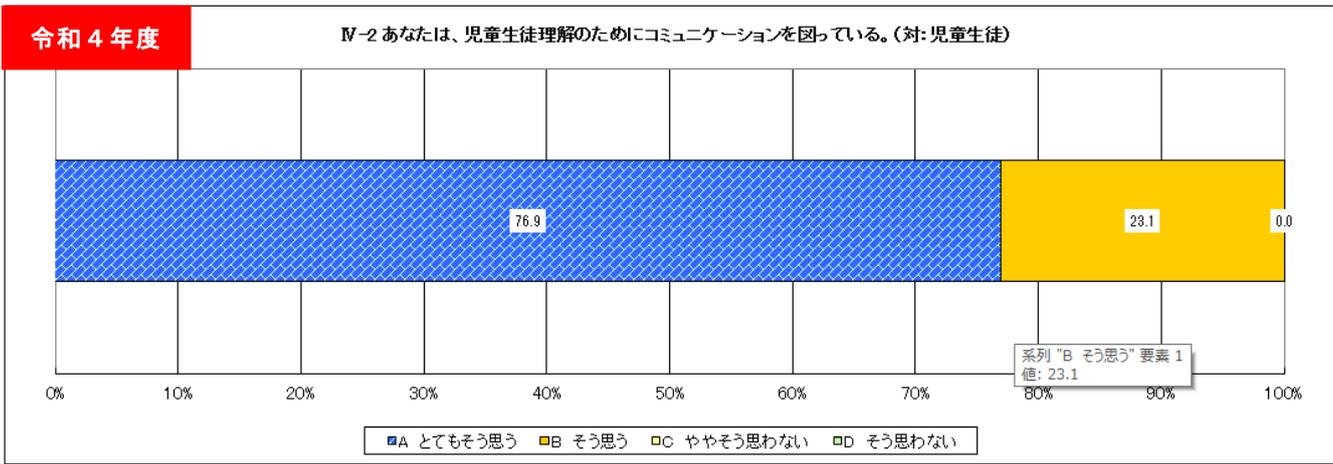
- ① 教職員全体が自信を持って教育活動にあたるためには、組織的な取組が必要である。教職員がそれぞれの育成指標に合った目標設定を行った上で、校内研究会やさまざまな研修、OJTを生かした教職員一人一人の資質・能力の向上を図っていききたい。
- ② 本校の強みである、教職員同士の連携や協働体制を今後も強く押し進め、教職員集団がチームとなることで、全教職員が自信を持って教育活動が取り組めるよう校長を中心とした組織作りを行っていく。

IV 生徒指導について

(1) 達成状況について

IV 生徒指導について	令和4年度				令和3年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
IV-1 あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	65.0	35.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
IV-2 あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童生徒)	76.9	23.1	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
IV-3 あなたは、児童生徒の規範意識をはぐむ指導に取り組んでいる。	56.0	44.0	0.0	0.0	74.1	25.9	0.0	0.0
IV-4 あなたは、キャリア教育(キャリア・パスポートの活用・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。	33.3	61.9	4.8	0.0	33.3	59.3	7.4	0.0
IV-5 あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。	48.0	48.0	4.0	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0
IV-6 あなたは、児童が意欲的にあいさつをするよう指導を行っている。	60.0	40.0	0.0	0.0				

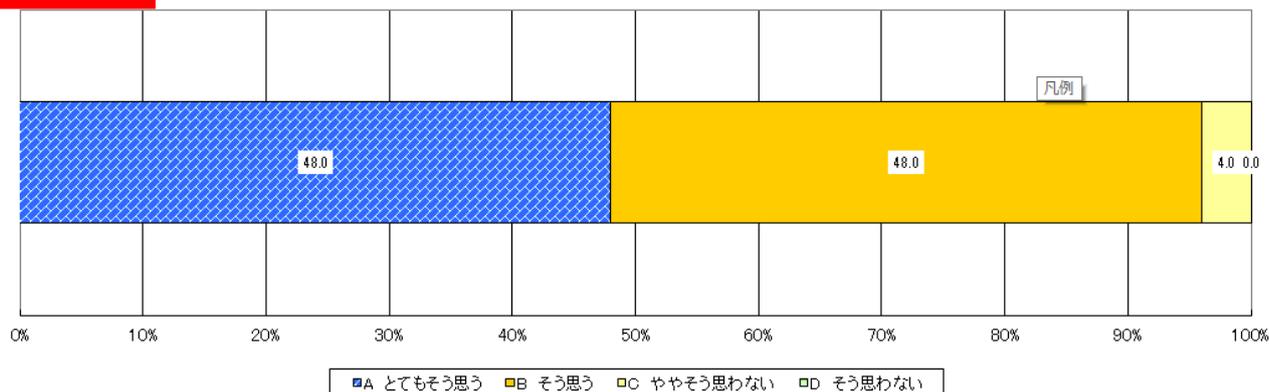
生徒指導についての達成状況についても、全体的に高い値を示していると言える。特に「児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている」という設問においては、「A：とてもそう思う」の回答率が約77%（20名）となっている。本校の教職員が児童に寄り添い、深い児童理解の上で教育活動を行おうとする意欲がよく表れていると言える。その成果は児童や保護者の意識にも表れており、学校に「相談できる先生がいる」という設問に対しても、よい結果を得ている。



一方、IV-5「問題行動の早期発見・早期対応」については「A：とても思う」の回答率が48%（12名）と比較的低い値を示している。問題行動の早期発見・早期対応については、教職員にとってははっきりとした成果や結果が得られづらい内容でもあり、自信を持って回答しにくいものであると考えられる。しかしながら、問題行動の早期発見・早期対応は今日の学校教育の喫緊の課題である。今後全教職員が自信を持って取り組んでいると回答できるようにしていかなければならない。

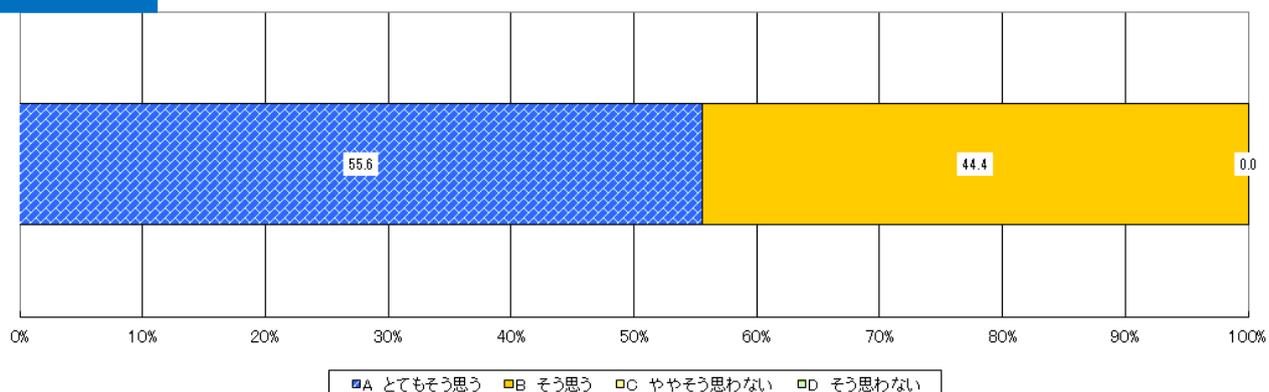
令和4年度

IV-5 あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができている



令和3年度

IV-5 あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができている



(2) 改善策について

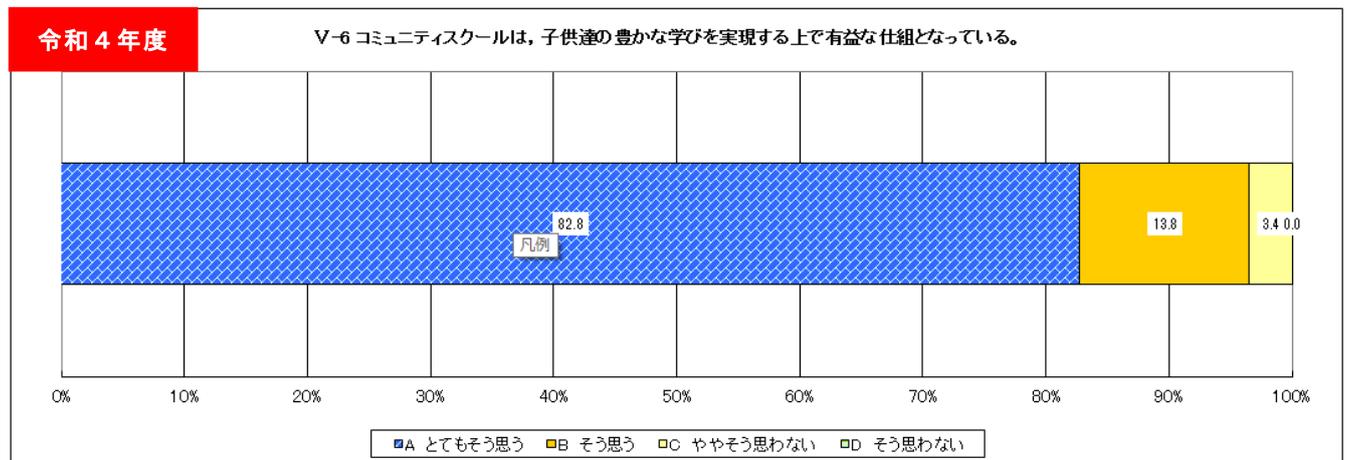
- 児童の問題行動については、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要である。できるだけ素早い対応ができるよう、日頃からの学級経営の充実を図ったり、児童や保護者、地域住民とのコミュニケーションを深めたりしていく。また、学年主任を中心に学年間の連携を密にとり、多くの目で児童の観察を行えるような体制をつくっていく。さらに、問題行動に対する組織的な対応ができるよう、生徒指導主任を中心にした校内委員会や職員会議等を通して、全教職員の共通理解を図り、全教職員で統一された意識を持ちながら児童の支援や指導にあたっていく。

V 地域との連携について

(1) 達成状況について

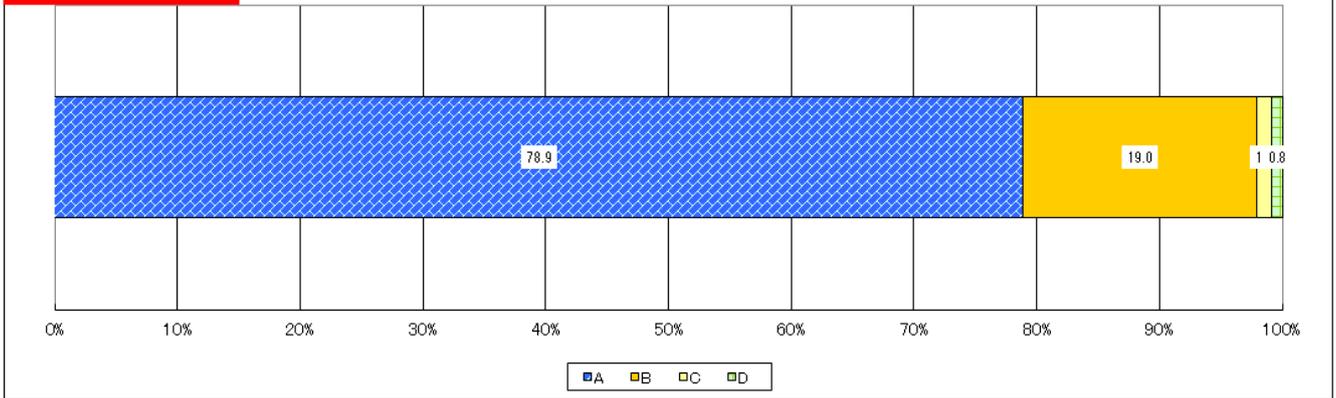
V 地域との連携について	令和4年度				令和3年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
質問内容	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	55.6	40.7	3.7	0.0	55.6	40.7	3.7	0.0
V-2 あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	62.1	37.9	0.0	0.0	74.1	22.2	3.7	0.0
V-3 あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	75.9	24.1	0.0	0.0	85.2	14.8	0.0	0.0
V-4 あなたは、PTA活動に積極的に参加している。	57.1	39.3	3.6	0.0	51.9	40.7	7.4	0.0
V-5 あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。	75.9	24.1	0.0	0.0	61.5	38.5	0.0	0.0
V-6 コミュニティスクールは、子供達の豊かな学びを実現する上で有益な仕組みとなっている。	82.8	13.8	3.4	0.0				

地域との連携については、大変よい結果が表れている。本校はコミュニティスクールであり、学校運営協議会を中心に学校応援団が組織され、地域住民も巻き込みながら児童の学びを支えていただいている。農作物の栽培の学習や図画工作の彫刻刀の使い方、体育の体の使い方の学習など、毎日のように地域の人材が学校を訪れ、講師や学習の手伝いをしていただいていることで、児童は安心して学習に取り組んでいる。また、高い専門性を持っている地域の方の話聞くことは、教職員の資質・能力の向上にもつながっている。そのような中、V-6「コミュニティスクールは有益である」は「A：とてもそう思う」が約83%（24名）であり、小学生用アンケートの「地域の人が教えてくれる授業はためになっていますか」との設定では、実に98%の児童が肯定的な回答をしており、大変高い評価となっている。



令和4年度児童

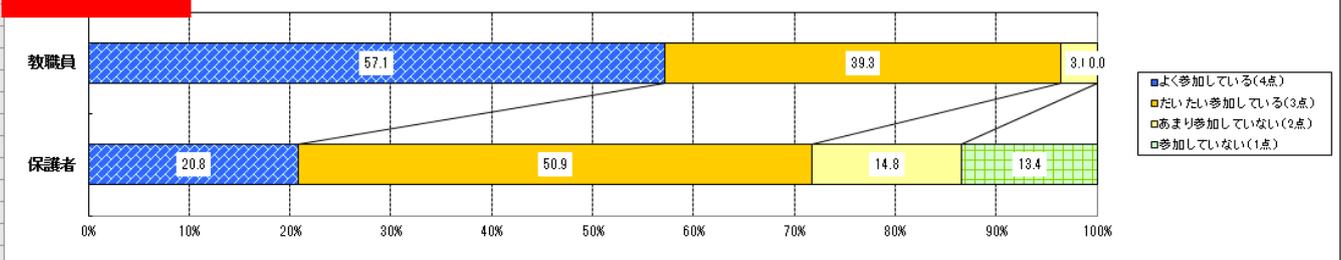
Q27地域の人が教えてくれる授業はためになっていますか。



また、保護者のPTA活動への参加の意識については、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにPTA行事が十分に実施できない状況が続く中で、昨年度と比べて多少の減少が見られた。それでも「A+Bの肯定的評価」は約72%となっており、肯定的な回答が高い水準を保っていると言える。

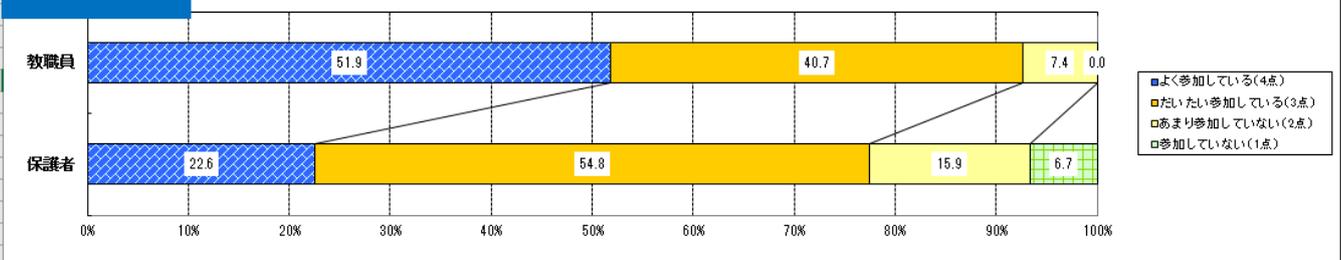
令和4年度

PTA活動に参加(TV-Q、P-11)



令和3年度

PTA活動に参加(TV-Q、P-11)



(2) 改善策について

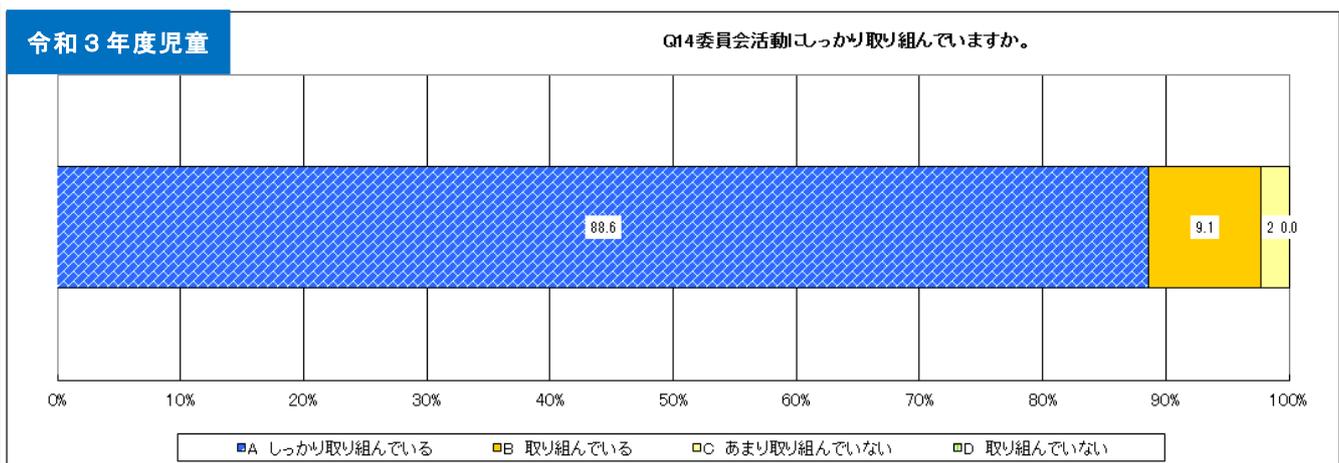
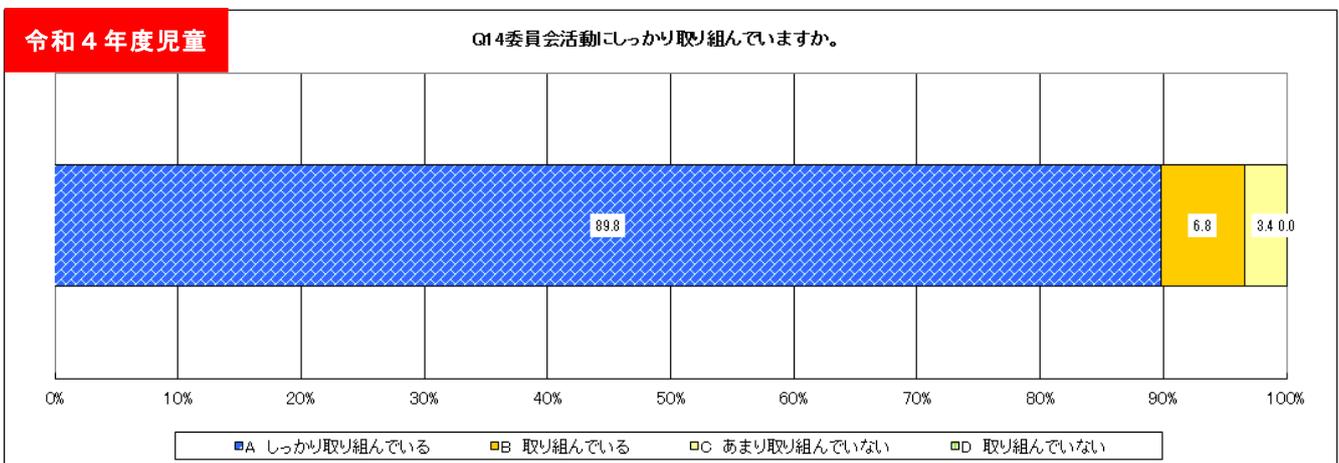
- ① 概ね良好な結果が示されている現状があるので、引き続き学校運営協議会を中心としながら、地域のみなさんとともに学ぶことができる、社会に開かれた学校を目指しながら学校運営を行っていく。
- ② 地域の講師の方とCSコーディネーターや教職員との連絡・調整をさらに密にとり、それぞれが共通理解を持つ中で学習計画を立て、効率的で効果的な学習内容を構築していく。
- ③ 社会の状況や学校行事等を鑑みながら、保護者や教職員の負担をできるだけ削減し、参加しやすいPTA活動を行うよう検討していく。

VI 学校の特色について

(1) 達成状況について

VI 学校の特色に関して	令和4年度				令和3年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
VI-1 あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう指導を行っている。	60.7	35.7	3.6	0.0	59.3	37.0	3.7	0.0
VI-2 あなたは、児童が進んで児童会活動に取り組むよう指導を行っている。	59.3	40.7	0.0	0.0	70.4	29.6	0.0	0.0

学校の特色に関しても概ね良好な結果が得られている。「一人一人の色を集め、星のように輝かせよう！」のテーマのもと、児童会本部や委員会活動を中心により良い学校を目指して児童とともに活動してきている。小学生用アンケートの「委員会活動にしっかり取り組んでいますか」の設問では、約96%の児童が肯定的な評価をしており、本校の委員会活動に対する児童の意欲の高さがうかがえる。これは教師の継続的な指導の結果である。



(2) 改善策について

- 学校の特色については、校長の指導の下、全教職員で共通認識をとりながら進めてきている。来年度以降も全教職員一丸となって取り組んでいく。

Ⅶ 創甲斐教育について

(1) 達成状況について

Ⅶ 創甲斐教育について	令和4年度				令和3年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
Ⅶ-1 あなたは、児童の読解力や表現力を高める指導を行っている。	50.0	50.0	0.0	0.0	48.1	51.9	0.0	0.0
Ⅶ-2 あなたは、児童同士の対話力を高める指導を行っている。	46.4	53.6	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
Ⅶ-3 あなたは、児童の体力向上や健康指導に努めている。	46.4	53.6	0.0	0.0	63.0	37.0	0.0	0.0

全体的に高評価であり、全ての項目について「A+Bの肯定的評価」が100%となっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、制限のある中での教育活動となっているが、それぞれの教職員が工夫を凝らしながら授業を構築し、「創甲斐教育」推進のために取り組んできている様子が表れている。

(2) 改善策について

- 「創甲斐教育」を推進するということは、毎日の授業を充実させることである。「確かな学力」を身につけさせ、「生きる力」を育むために、教職員が個々の育成指標に合った適切な目標設定を行った上で、校内研究会やさまざまな研修を行うのと同時に、OJTを生かしながら全教職員の資質・能力の向上を図っていききたい。

3 まとめ（成果と課題）

I 学校教育目標・学校経営について	
成 果	課 題
○学校教育目標をもとにした学校経営	○PDCAサイクルを生かした教育活動 ○機能的な校務分掌の働き
II 学校運営について	
成 果	課 題
○教職員同士の協働体制 ○職務上の「報告、連絡、相談、確認」	○校務支援システムの活用 ○働き方改革への意識 ○機能的な特別支援体制
III 学習指導について	
成 果	課 題
○児童の学びの意欲を喚起する授業 ○基礎基本の定着を図る授業 ○ICTを効果的に活用した授業 ○協働的な学びを取り入れた授業	
IV 生徒指導について	
成 果	課 題
○児童理解のためのコミュニケーション ○「学校には相談できる先生がいる」などの保護者・児童からの信頼感	○問題行動の早期発見・早期対応
V 地域との連携について	
成 果	課 題
○コミュニティスクールの活用 ○保護者のPTA活動への参加の意識	○地域の方と学校の連絡調整の強化
VI 学校の特色について	
成 果	課 題
○児童会活動への積極的な取組	
VII 創甲斐教育について	
成 果	課 題
○読解力や表現力を高める指導 ○対話力を高める指導 ○体力向上や健康指導	